

# 「教科学力」の現状

ベネッセコーポレーション小中学校事業部  
河田 真 森本 佳乃子 中山 明子

## はじめに

「学力向上のための基本調査(総合学力基本調査)」では、教科学力の現状を調査するために、学習到達度調査を実施した。これは、小学校第5学年には国語・算数、中学校第2学年には国語・数学・英語を出題し、学習指導要領の内容の定着状況を見るものである。

また、学習意識調査では、各教科の関心・意欲・態度に関する項目を質問した。関心・意欲・態度については、ペーパーテストの形式では測ることが難しいため、質問紙による子どもの自己評価から状況を見ることとした。

以上の2つの調査結果から、子どもの教科学力の現状について考察してみたい。

なお、第3章以降で「教科学力」と「学びの基礎力」や「生きる力」との関係調べているが、本節は、それらの関係を考えるにあたって前提となる教科学力の中身の情報を提供するものである。

## 出題方針

### 1) 実施概要

#### (1) 実施学年・教科

小学校第5学年：国語・算数 中学校第2学年：国語・数学・英語

#### (2) 実施時間

小学校第5学年：各教科40分 中学校第2学年：各教科45分

### 2) 学習到達度調査の出題方針

#### (1) 出題の基本方針

学習到達度調査は、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を把握し、今後の個人の学習や、学校における指導の改善に資することを目的とする。

その目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて、調査を行う。

#### (2) 出題の具体的方針

①学習指導要領の目標、内容に照らした学習の実現状況を、出題レベル(基礎・応用)、学力観点、学習領域のそれぞれにおいて、把握することを目指す。

ア 出題レベルについては、児童・生徒に最低限身につけてほしい難易度の問題を「基礎問題」、学習指導要領の範囲において応用的・発展的な学力を用いて解答に挑戦する問題を「応用問題」としている。

イ 学力観点については、現在の観点別評価の項目に準拠する。ただし、「関心・意欲・態度」に関する項目(全教科)や「聞く・話す」(国語)については、出題の形式上、評価

の観点から除いている。

ウ 学習領域については、学習指導要領などを参考にして独自に定めている。

- ②問題の分量は、児童・生徒が時間内にすべての問題にひととおり取り組むことができるように留意する。
- ③解答については、正解の他、問題によって準正解を設ける。準正解については、完全な正解とは言えないが、学習指導要領の目標・内容に照らしての学習の実現状況を判断しようとする際、その問題のねらいから「おおむね満足」と認められ、正解と同等に扱ってよいと判断できるものをいう。正解又は準正解を解答した児童・生徒の割合を「通過率」とする。

### 3) 調査問題の作成

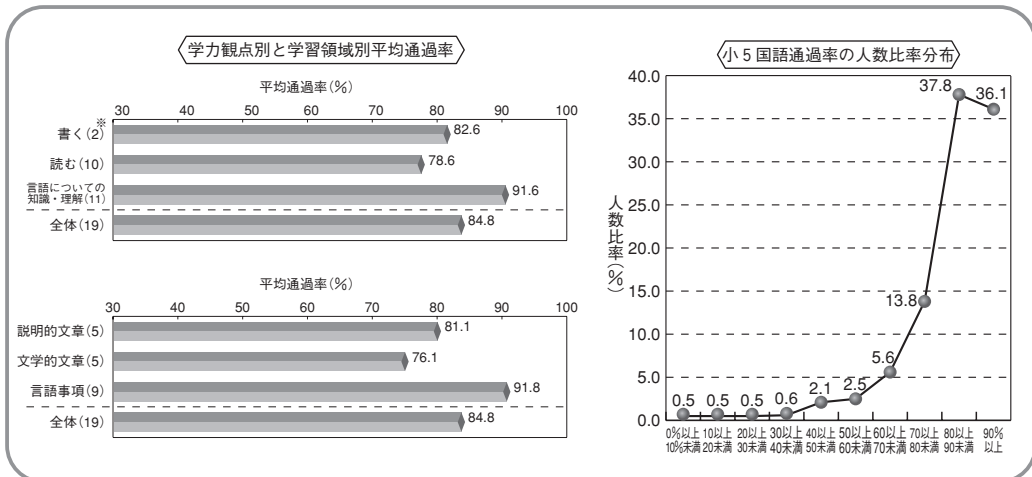
調査問題は、ベネッセコーポレーションの問題作成スタッフにより作成した。なお、問題の妥当性を高める上で、企画段階より荒川区教育委員会と共同で検討を行った。

### 4) 問題の公開について

今回学習到達度の測定に用いた問題は、今後の学力調査・研究において継続して使用し、変化を見ていくものである。したがって今後の調査の公平性・妥当性を期するために、問題を公開しないことをご了承いただきたい。

## 国語

### 国語：小学校第 5 学年の結果分析



※…( )内の数字は出題数を示す。なお、複数の観点を持つ設問があるため、観点別の出題数合計は全体の出題数と異なる。

### (1) 結果概況

#### <度数分布>

小 5 の国語では平均通過率が 84.8 % と高く、度数分布を見ると 80 % 以上の問題を通過した児童は、全体の 73.9 % にのぼる。

## ＜学力観点別状況＞

## ① 「書く力」…意欲をもって解答しているが、表現については不十分

書く力を見る問題として、設問文を題材にしながら自由な発想で解答を記述する記述問題を出題している(第2問 問4)。この問題の結果を見ると、77.7%の児童が通過しており、「何か解答を考えて書こう」という意欲を持って自分の意見を書くことができている児童が多い。ただし、通過した解答のうち、一部で誤字や表現上の不備がある解答(準正解)も見られる(12.9%)。考えたことを筋道立てて書くこと、効果的に表現すること、正しい表記で書くことを意識した指導が必要であろう。

## □出題要旨と結果：第2問 問4

(文学的文章を読んで)本文の内容を踏まえ、思ったことを自由な発想で記述する。

解答内容	評価	割合(%)
◎ 本文の内容を踏まえ、自分の考えたことを、自由な発想や表現で書けている	正解	64.8
○ 自分の考えが書けているが、本文を踏まえた表現がやや曖昧である	準正解	2.1
○ 上記類型1もしくは2の解答で、誤字や表現上の不備がある	準正解	10.8
× 文章中の表現を使用しているが、題意から外れている	不正解	2.1
× 文章のあらすじのみを記述している	不正解	2.3
× 上記以外の解答	不正解	14.0
× 無解答	不正解	3.9

## ② 「読む力」…場面の移り変わりをつかみきれていない

読む力は78.6%の平均通過率であり、良好な結果である。しかしその中で、人物の心情を読み取り正しい文章を選択する問題(第2問 問3)の通過率は31.3%と低い。これは場面の転換や傍線部より後の人物の発言を正しく読み取れず、人物の心情をつかまきれなかったものと思われる。文学的文章については、いろんな文に触れさせ、場面の移り変わりや情景を想像しながら読む指導も必要である。

## □出題要旨と結果：第2問 問3

(文学的文章を読んで)登場人物が、文章中にあるような行動をとった理由として適当な文を選ぶ。

解答内容	評価	割合(%)
× 場面の転換を正しく読み取れず、誤った文を選択しているもの	不正解	10.8
× 場面の転換を正しく読み取れず、誤った文を選択しているもの	不正解	12.2
× 本文の傍線部以降を読み取れずに、誤った文を選択しているもの	不正解	43.5
◎ 本文を正しく読み取り、適切な文を選ぶことができているもの	正解	31.3
× 上記以外の解答	不正解	0.2
× 無解答	不正解	1.9

③ 「言語についての知識・理解」…さらなる知識の定着を

漢字の読み取りについては出題した 3 問の平均通過率は 94.4 % と高い水準となった。また、漢字の書き取りについては、平均通過率が 85.4 % である。ただし、出題した漢字はそれほど難度が高くない漢字であるため、誤りやすい文字を出題した場合は通過率が低下すると思われる。

語句の問題では「たとえ」「どうぞ」「けっして」といった語句が空欄に当てはまる文を選ばせることで、語句の理解について問うた。通過率は高く、理解が定着している児童の割合は高いと思われる。

■出題内容・通過率一覧

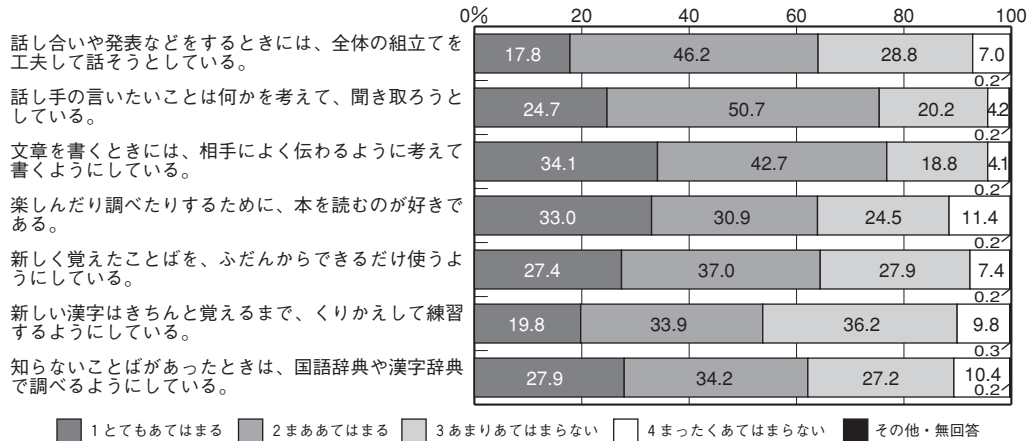
小学校国語第 5 学年

問題番号		出題の内容	評価規準	学力観点				学習領域		通過率
大問	小問			応用	書く力	読む力	高階ついでの鑑・理解	説明的文章	文学的文章	
1	1	要点の把握 (十八字書きぬき)	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。			●		■		87.9
	2	理由の把握	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。		●	●		■		87.4
	3	指示語の内容把握	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。	○		●		■		49.2
	4	空所補充 (接続語)	・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。			●	●	■		94.9
	5	全体内容の把握	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。			●		■		86.2
2	1	空所補充 (様子をあらわすことば)	・登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。 ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。			●	●		■	86.2
	ア	理由の把握	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。			●			■	91.9
	イ	理由の把握	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。			●			■	93.3
	3	理由の把握	・登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。	○		●			■	31.3
4	物語の全体内容の把握	・登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。 ・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くことができる。	○	●	●			■	77.7	
3	1	漢字の読み取り	・当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。				●		■	94.7
	2	漢字の読み取り	・当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。				●		■	95.5
	3	漢字の読み取り	・当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。				●		■	93.0
4	1	漢字の書き取り	・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。				●		■	78.5
	2	漢字の書き取り	・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。				●		■	86.5
	3	漢字の書き取り	・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。				●		■	91.3
5	1	正しい表現を選ぶ	・語句に関する類別の理解を深めることができる。				●		■	95.4
	2	正しい表現を選ぶ	・語句に関する類別の理解を深めることができる。				●		■	94.4
	3	正しい表現を選ぶ	・語句に関する類別の理解を深めることができる。				●		■	97.0

## (2) 関心・意欲・態度に関する質問と回答結果

小学校第5学年の国語の関心・意欲・態度に関する質問は、学習意識調査の中で行った。調査項目の設計においては、学習指導要領の内容や国立教育政策研究所の評価規準例などを参考に、好ましい関心・意欲・態度を厳選・検討し、質問項目とした。全体の回答結果は以下の通りである。

## ■小学校国語第5学年 関心・意欲・態度



肯定的な回答(「とてもあてはまる」および「まああてはまる」)をしている児童の割合を見ると、下の傾向がうかがえる。

## ①国語に対する意欲はみられるが、さらなる具体的な実践が求められる

「話し手の言いたいことは何かを考えて、聞き取ろうとしている」「文章を書くときには、相手によく伝わるように考えて書くようにしている」という質問に対して、それぞれ75.4%、76.8%の児童が肯定的に回答している。国語に対する活動について、多くの子どもが意欲をもって取り組んでいることがわかる。

それに対して、ふだんからの学習習慣の定着・実践を求める内容の質問については、肯定的に回答した児童の割合がやや低い。「新しく覚えた言葉を、ふだんからできるだけ使うようにしている」児童が64.4%、「新しい漢字はきちんと覚えるまで、くりかえして練習するようにしている」児童が53.7%、「知らないことばがあったときは、国語辞典や漢字辞典で調べるようにしている」児童は62.1%である。ふだんから学習を習慣づけて実践する態度を、学習指導のガイダンスなどを通じて育成していくことが望まれよう。

## ②話すことについての意欲が相対的に低い

「話し合いや発表をするときには、全体の組み立てを工夫して話そうとしている」児童の割合は64.0%であった。この数値は「話し手の言いたいことは何かを考えて、聞き取ろうとしている」「文章を書くときには、相手によく伝わるように考えて書くようにしている」という質問と比べると、相対的に低い。話すことに関する指導が、さらに重視されることが望まれる。

③本を読むのが嫌いな子どもが  $\frac{1}{3}$  みられる

「楽しんだり調べたりするために本を読むのが好きである」児童の割合は、63.9%であった。本が嫌いな子どもが  $\frac{1}{3}$  以上いることを示している。

(3) 学習到達度と関心・意欲・態度の関係

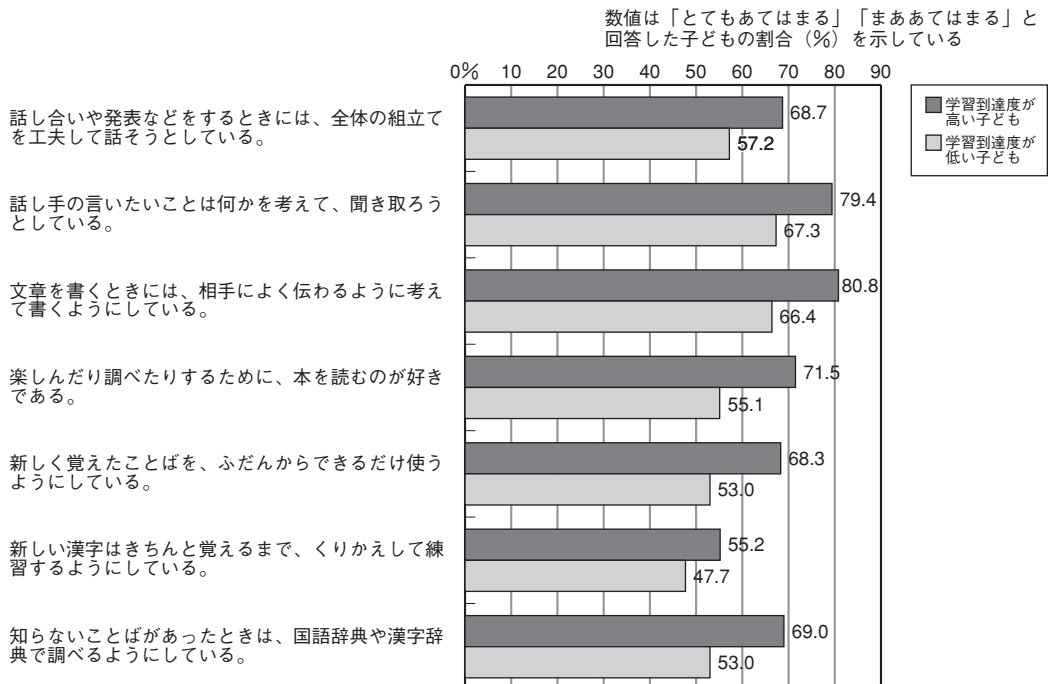
学習到達度調査の国語の結果によって児童を3つの学力群に分け、そのうち学力上位の群と下位の群とで、関心・意欲・態度に関する質問の回答状況がどのように違うのかを調べた(下の図参照)。

いずれの項目においても、学習到達度が高い子どものほうが、肯定的に回答している割合が高い。これは、教科学習に対する関心・意欲・態度と教科の学習到達度は、互いに強い関係があることを示している。

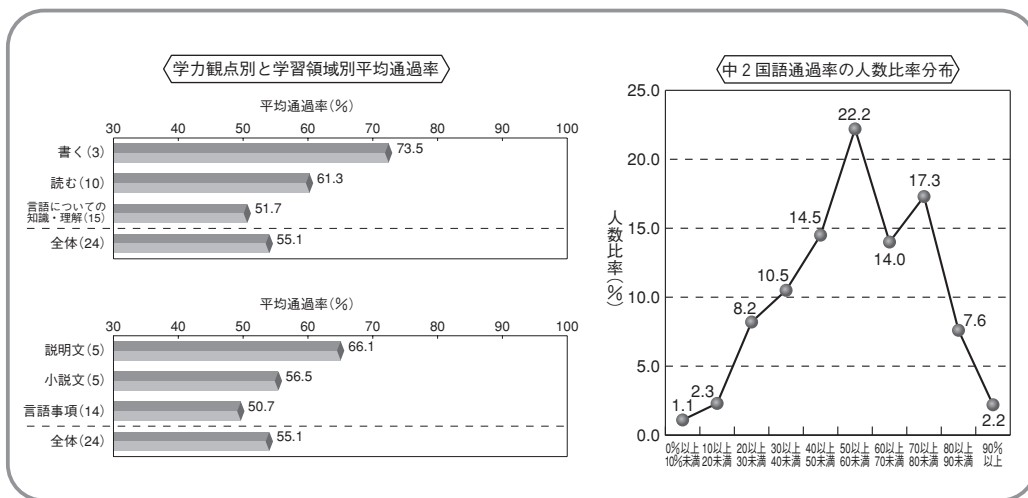
上記の質問項目について、学習到達度が高い子どもと低い子どもとの差が大きい項目を見ると、「楽しんだり調べたりするために、本を読むのが好きである。」が16.4ポイントの差、「知らないことばがあったときは、国語辞典や漢字辞典で調べるようにしている。」が16.0ポイントの差、「新しく覚えたことばを、ふだんからできるだけ使うようにしている。」が15.3ポイントの差となっている。

現在実践されている学力向上の取り組みの中で、新しい言葉をふだんから使うことや、国語辞典や漢字辞典で知らない言葉を調べるなどの学習方略を習慣づけたり、言語活動に対する意欲を高めたりすることについて、今一度状況を確認してみてもはどうだろうか。

■国語の学習到達度と関心・意欲・態度の回答傾向〈小5〉



国語：中学校第2学年の結果分析



(1) 結果概況

<度数分布>

平均通過率は55.1%であった。度数分布を見ると、生徒の分布は50%台をピークとして、多くが40%～80%の間に集まっていることがわかる。

<学力観点別状況>

① 「書く力」…読み手に伝えるための表現力が求められる

書く力については73.5%の平均通過率であるが、そのうち通過率の低かった問題を見てみたい。

説明的文章を読み、内容を相手に伝える力を見る問題を出題した(第2問 問4)。通過率は44.2%であるが、このうち、実際に正解をきちんと記述できているのは、22.9%にとどまっている。2つのポイントを指摘できているものの、誰かにそのポイントを話しているように書くという条件を満たしていないなど、表現上の不備がある解答が21.3%である。読み手に伝えるための表現力が、一層求められる。

□ 出題要旨と結果：第2問 問4

(説明的文章を読んで)内容のポイントを相手に伝える力を見る。

解答内容	評価	割合 (%)
◎ 本文の内容を踏まえ、二つのポイントを正しく説明できている	正解	22.9
○ 二つのポイントを説明できているが、表現上の不備がある	準正解	21.3
× 上記以外の解答	不正解	39.2
× 無解答	不正解	16.5

② 「読む力」…情景を思い浮かべながら読む力がついていない

読む力については、61.3%の平均通過率であった。このうち文章から設問の示す箇所を抜き出す問題(第3問 問1(2))の通過率は、39.7%と最も低い。比較的長い範囲から選ばなければならないため、文章が表している情景を思い浮かべながら注意深く読むことができなかったことが考えられる。

□ 出題要旨と結果：第3問 問1(2)  
(文学的文章を読んで)設問の示す箇所を抜き出す。

解答内容	評価	割合(%)
◎ 本文を正しく読み取り、適切な箇所を記述しているもの	正解	29.3
○ 書き抜いた部分に、句読点の抜けや誤字などの誤りがみられるもの	準正解	10.4
× 上記以外の解答	不正解	53.2
× 無解答	不正解	7.1

③ 「言語についての知識・理解」…漢字の書き取りと文法事項に課題が見られる

言語についての知識・理解の平均通過率は51.7%であり、観点別に見ると最も低い結果となった。漢字の書き取りについては、出題している5問の平均通過率が46.5%である。いくつか間違えやすい文字を含めたことにより、小学校に比べ平均通過率が低くなっている。誤りやすい漢字についても確かな定着が求められる。

また文法事項の通過率の低さが目立つ。文章中の品詞名を答える問題や、副詞・連体詞を抜き出す問題(第1問 問2)の通過率を見ると、動詞についてはかろうじて半分の生徒が解答できているが、その他は通過率が低い。



■出題内容・通過率一覧

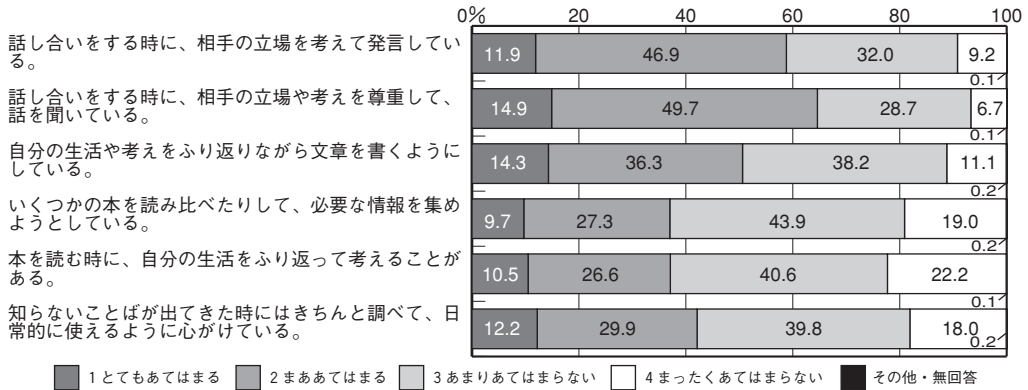
中学校国語第2学年

問題番号		出題の内容	評価規準	学力観点				学習領域		通過率	
大問	小問			応用	書く力	読む力	語彙の知識・構	説明的文章	小説的文章		言語事項
1	問1	1 漢字の読み取り	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むことができる。			●			■	95.1	
		2 漢字の読み取り	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むことができる。			●			■	57.7	
		3 漢字の読み取り	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むことができる。			●			■	94.0	
		4 漢字の書き取り	学年別漢字配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。			●			■	54.2	
		5 漢字の書き取り	学年別漢字配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。			●			■	80.6	
		6 漢字の書き取り	学年別漢字配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。			●			■	15.0	
		7 漢字の書き取り	学年別漢字配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。			●			■	57.3	
		8 漢字の書き取り	学年別漢字配当表のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。			●			■	25.2	
	問2(1)	① 品詞名(動詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	55.8
		② 品詞名(形容動詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	27.1
		③ 品詞名(形容詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	46.8
		④ 品詞名(名詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	28.2
	問2(2)	副詞(副詞・連体詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	26.2
		連体詞(副詞・連体詞)	文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えることができる。	○			●			■	22.2
2	問1	空所補充(接続語)	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てることができる。単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに気づくことができる。			●	●		■	65.6	
	問2	言い換え部分の指摘(三字書きぬき)	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している。書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てることができる。	○	●	●			■	55.9	
	問3	理由内容の指摘	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること。		●	●			■	95.4	
	問4	筆者の意見の内容把握(百字記述)	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てることができる。自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすることができる。	○	●	●			■	44.2	
	問5	全体内容の理解	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。			●			■	69.3	
3	問1	(1) 登場人物の把握(五字書きぬき)	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。	○		●			■	50.0	
		(2) 登場人物の把握(五字書きぬき)	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。	○		●			■	39.7	
	問2	人物像の把握	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。			●			■	64.3	
	問3	登場人物の心情把握	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。	○		●			■	47.6	
	問4	登場人物の心情把握(四十字記述)	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てることができる。自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすることができる。	○	●	●			■	80.7	

(2) 関心・意欲・態度に関する質問と回答結果

中 2 国語の関心・意欲・態度に関する質問項目の回答結果は、以下の通りである。

■中学校国語第 2 学年 関心・意欲・態度



肯定的な回答(「とてもあてはまる」および「まああてはまる」)をしている生徒の割合を見ると、次のような傾向がうかがえる。

①聞くこと・話すことに関する意識は高い

「話し合いをする時に、相手の立場を考えて発言している」「話し合いをする時に、相手の立場や考えを尊重して、話を聞いている」という質問に対して、それぞれ 58.8%、64.6% の生徒が肯定している。他の項目と比較すると、聞くこと・話すことに関する意識は高いことがうかがえる。

②本を読む態度については好ましい状況とは言えない

「いくつかの本を読み比べたりして、必要な情報を集めようとしている。」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は 37.0% であった。国語と情報教育のつながりが深まる中で、このような態度は強く求められているが、実態としては定着していない状況が推測される。また、「本を読む時に、自分の生活をふり返って考えることがある。」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は 37.1% であった。読書を通じて物の見方や考え方を育てる指導が必要となろう。

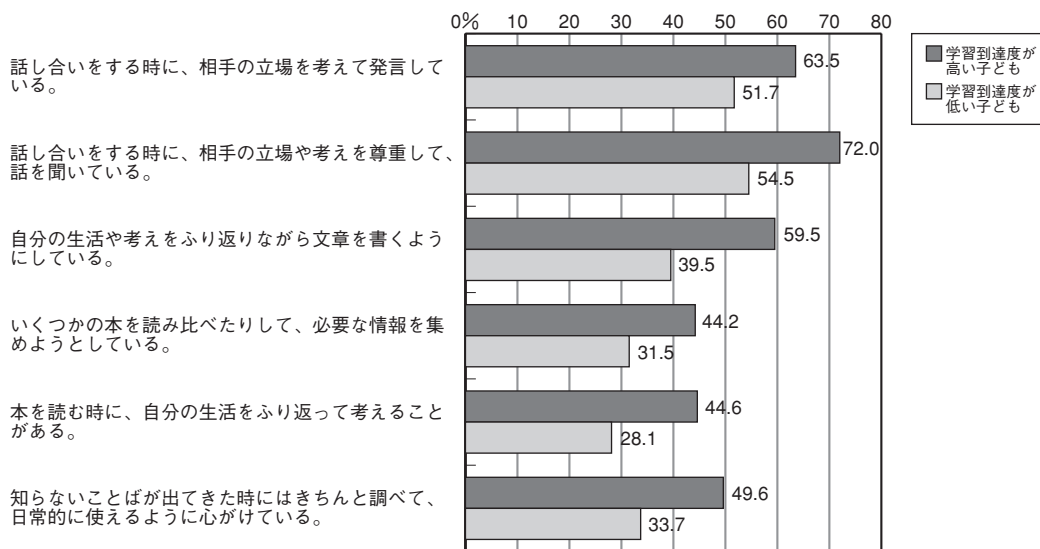
(3) 学習到達度と関心・意欲・態度の関係

「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合を比較すると、どの項目においても、学習到達度が高い子どもの方が、学習到達度が低い子どもに比べて10~20ポイント程度高いことがわかる(次ページの上図参照)。このことは、教科学習に対する関心・意欲・態度と教科の学習到達度に関係が見られることを示している。

最も差がついているのは、「自分の生活や考えをふり返りながら文章を書くようにしている」という項目で、20ポイントの差がついている。学習到達度の高い子どもの多くは、こういった態度が身につけているようである。

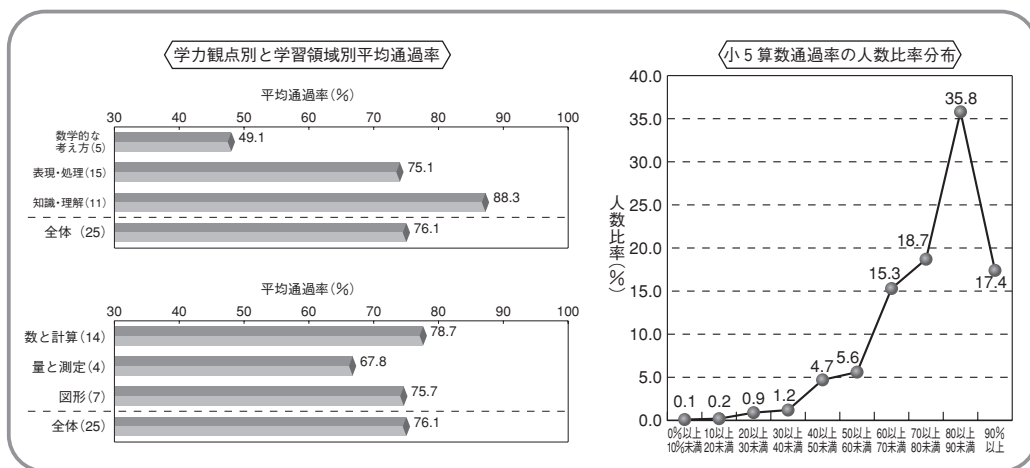
■国語の学習到達度と関心・意欲・態度の回答傾向〈中2〉

数値は「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子どもの割合(%)を示している



算数・数学

小学校算数：第5学年の結果分析



(1) 結果概況

<度数分布>

小5の算数では平均通過率は76.1%となっている。度数分布を見ると、80%以上の問題を通過した児童は、全体の53.2%(35.8%+17.4%)となっている。

<学力観点別状況>

①「数学的な考え方」…問題を理解し、自分で解答を組み立てる力の育成

この観点においては、授業の中で学習した項目をもとに、自分で解答を組み立てて解くような問題

を出している。平均通過率は、49.1 %と他の観点に比べて25ポイント以上低くなっている。設問ごとに見ていくと、平行四辺形から三角形を切り取った形の面積を求める問題(第5問④)では通過率28.4 %であり、表に示していないが無解答の答案も19.6 %と、図形を見ても手がつけられていない児童も多いようだ。また、具体的な事象について小数倍からもとになる量を求める問題(第5問⑤)では通過率30.9 %となっている。割り算の立式とすべきところをかけ算にしている答案が54.0 %もあった。いずれも、問題を読んだり図形を見たりした後、一度自分で問題をかみ砕いたのちに知っている内容に帰着させて考えることが必要である。このような問題に日ごろから接することで、問題を理解し、自分で解答を組み立てる力を養っておきたい。

□ 出題要旨と結果：第5問⑤

具体的な事象について小数倍からもとになる量を求める。

解答内容	評価	割合 (%)
◎ 式、答えともに正解	正解	30.9
× 式は正しいが、答えが不正解…割り算間違い	不正解	5.2
× 式の適用間違い…立式がかけ算になっている	不正解	54.0
× その他の解答	不正解	2.5
× 無解答	不正解	7.4

② 「数量や図形についての表現・処理」…表現・処理定着のための活動の工夫を

表現・処理において、平均通過率は75.1 %である。ただし、設問別に見ていくと、やや課題の残る項目もある。直角三角形の面積を求める問題(第4問②)においては通過率が49.2 %となっており、底辺×高さ÷2の「÷2」が抜けている答案が18.3 %もある。公式として徹底させることも必要であるが、「÷2」を体感するような活動を通して、楽しみながら公式を理解し、自分のものとさせることも大切であろう。

□ 出題要旨と結果：第4問②

直角三角形の面積を求める。

解答内容	評価	割合 (%)
◎ 正解	正解	49.2
× 公式が正しく適用できていない(÷2抜け)	不正解	18.3
× その他の解答	不正解	28.0
× 無解答	不正解	4.5

③ 「数量や図形についての知識・理解」…取りこぼしのないよう、しっかりと押さえる

算数を学習する上で、ベースとして必要となる知識・理解面は、平均通過率が88.3 %となり、多

この設問で通過率9割を越えているが、中にはやや定着の悪い学習項目も見受けられる。小数を $\frac{1}{100}$ にする問題(第1問③)においては、通過率が78.8%と他の設問と比べ低くなっている。基本的な事項については、取りこぼしがないようしっかりと押さえておきたい。

## ■出題内容・通過率一覧

### 小学校算数第5学年

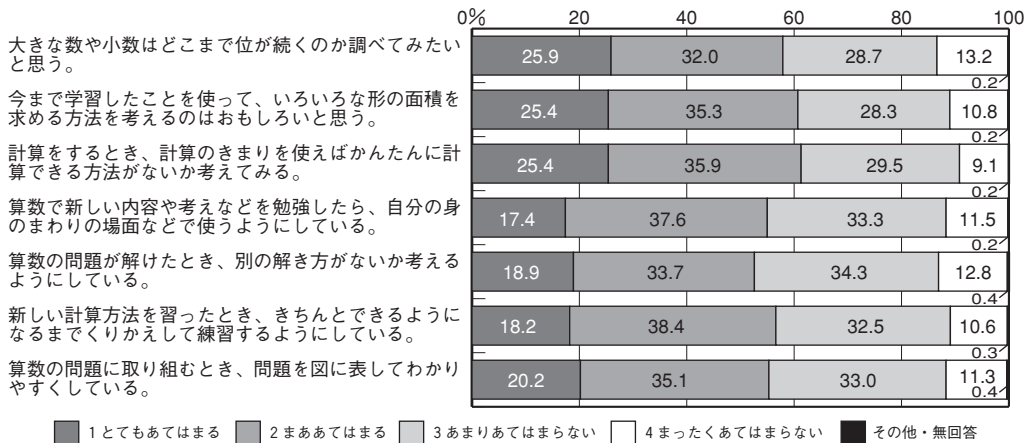
問題番号		出題の内容	評価規準	学力観点					学習領域				通過率
大問	小問			応用	関心・意欲・態度	数学的な考え方	算や彫らるる算・繰	算や彫らるる知識	A数と計算	B量と測定	C図形	D数量関係	
1	1	整数を100倍した大きさ	整数を100倍した大きさのつくり方が理解できている					●	■				88.9
	2	小数のしくみ	小数のしくみについて理解できている					●	■				93.8
	3	小数を100分の1にした大きさ	小数を100分の1にした大きさのつくり方が理解できている					●	■				78.8
	4	奇数を見つける	奇数を見つけることができる					●	■				83.0
	5	数直線と小数の大きさ	数直線で小数の大きさがわかる					●	■				98.6
2	1	角の大きさ	角の大きさを分度器を用いてはかる方法を知っている					●		■			96.6
	2	垂直の関係	垂直の関係について理解できている					●			■		94.2
	3	平行の関係	平行の関係について理解できている					●			■		92.9
	4	平行四辺形	平行四辺形を見つけることができる					●			■		98.3
	5	三角形の内角の和	三角形の角の和について理解できている	○				●			■		85.4
3	1	2位数×1位数の計算	2位数×1位数の計算ができる				●		■				91.7
	2	小数×整数の計算	小数×整数の計算ができる				●		■				83.9
	3	小数×小数の計算	小数×小数の計算ができる				●		■				76.1
	4	同分母分数の加法	同分母分数の加法ができる				●		■				97.7
	5	小数÷小数の計算(商は概数)	小数÷小数の計算で商を上から2桁の概数で求めることができる	○			●		■				60.8
4	1	長方形の面積	長方形の面積を求めることができる				●			■			97.2
	2	三角形の面積	三角形の面積を求めることができる				●			■			49.2
	3	平行四辺形の作図	2つの辺の長さとその間の角があたえられた平行四辺形をかくことができる				●				■		60.6
5	1	文章題：あまりのある整数の除法	具体的な事象について、あまりのある整数の除法を用いて問題を解くことができる	○		●			■				66.7
	2	円・長方形の性質と図形の長さ	円・長方形の性質を用いて図形の長さを求めることができる	○		●				■			35.0
	3	十進位取り記数法	小数の大きさを考える活動を通して、小数の表し方を十進位取り記数法として考えることができる	○		●			■				84.2
	4	複合図形の面積	複合図形の面積を求めることができる	○		●				■			28.4
	5	文章題：小数倍の計算	具体的な事象について、小数倍を求めることができる	○		●			■				30.9
6	1	身の回りにある平面図形	身の回りにある平面図形について関心をもっている		●						■		63.3
	2	進んで数学的に考え、表現できる	与えられた数式から具体的な事象を発想する楽しさに気づき、進んで数学的に考え、表現できる		●					■			67.1

(2) 関心・意欲・態度に関する質問と回答結果

小学校第 5 学年の算数の関心・意欲・態度に関する質問は、学習意識調査の中で行った。調査項目の設計においては、学習指導要領の内容や国立教育政策研究所の評価規準例などを参考に、好ましい関心・意欲・態度を厳選・検討し、質問項目とした。

全体の回答結果は以下の通りである。

■小学校算数第 5 学年 関心・意欲・態度



肯定的な回答(「とてもあてはまる」および「まああてはまる」)をしている児童の割合を見ると、次のような傾向がうかがえる。

①算数に対する関心・意欲・態度に関する項目

一般的に 60% 程度の児童が肯定的に回答をしている。その中で「算数で新しい内容や考えなどを勉強したら、自分の身のまわりの場面などで使うようにしている」という質問に対して肯定的に回答している児童は 55.0% と、他の項目と比較するとやや低くなっており、「とてもあてはまる」と積極的な回答をしている児童は 17.4% である。日常生活の事象を、算数に持ち込む活動と同様、算数で学習したことをもう一度日常生活で活用するという場面を積極的に設けることで、児童に算数をより日常的なものとして捉えさせることが大切であろう。

②理解・習得のために努力をする習慣を

「新しい計算方法を習ったとき、きちんとできるようになるまでくりかえして練習するようにしている」という質問に対して 43.1% の児童が否定的に回答している。興味・関心をもって学習をした後、学習した項目をしっかりと定着させることが大切である。特に計算については、様々な学習項目のベースになる部分であるので、わからないことの積み残しは避けたい。その上で、「計算が正確にできる→様々な問題に取り組もうと思う→さらに計算のスキルがアップする」というように、自主的な学習が進むようにしていくことが望まれよう。

(3) 学習到達度と関心・意欲・態度の関係

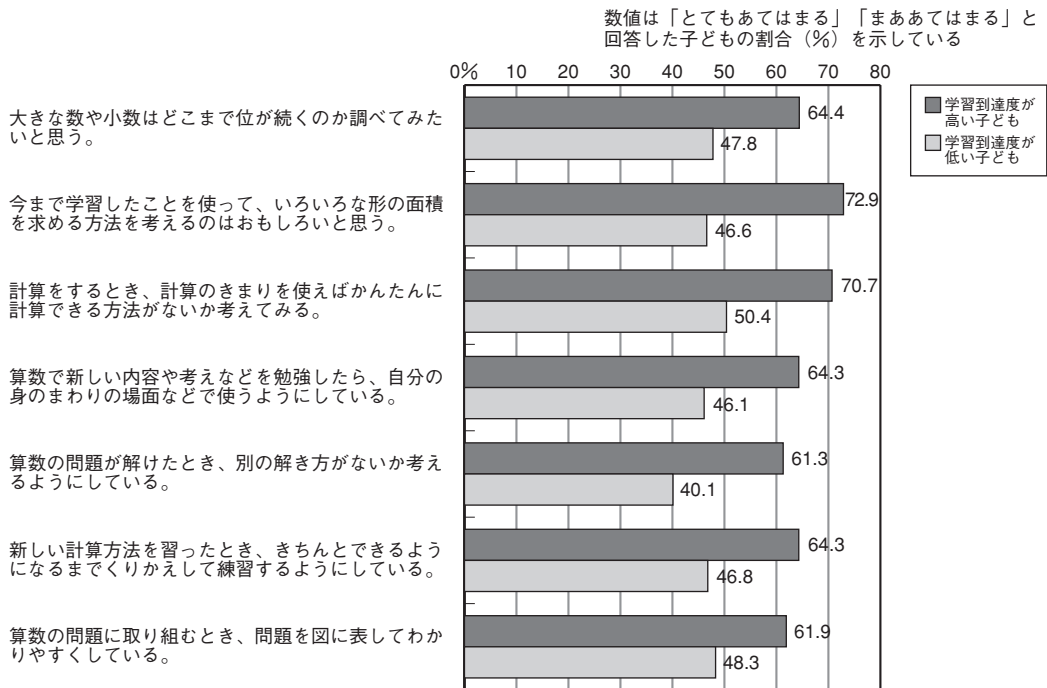
学習到達度調査の算数の結果によって児童を3つの学力群に分け、そのうち学力上位の群と下位の群とで、関心・意欲・態度に関する質問の回答状況がどのように違うのかを調べた。

いずれの項目においても、学習到達度が高い児童のほうが、肯定的に回答している割合が高い。これは、教科学習に対する関心・意欲・態度と教科の学習到達度は、互いに強い関係があることを示している。

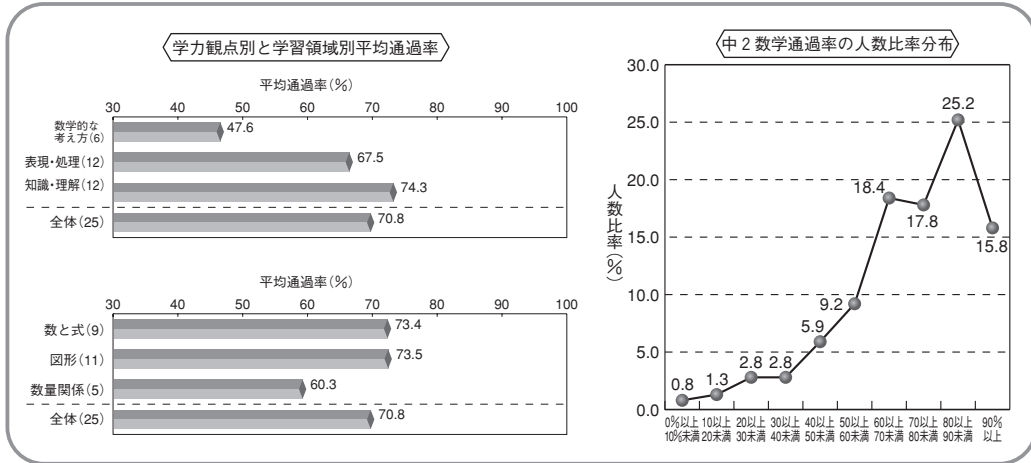
このうち、学習到達度が高い児童と低い児童との差が20%以上のものをみると、「今まで学習したことを使って、いろいろな形の面積を求める方法を考えるのはおもしろいと思う」で26.3%、「計算をするとき、計算のきまりを使えばかんたんに計算できる方法がないか考えてみる」で20.3%、「算数の問題が解けたとき、別の解き方がないか考えるようにしている」で21.2%となっている。学習到達度が高い児童の特性として、学習した内容を他の問題にも積極的に適用しようとしている姿勢があげられる。

いずれの質問項目においても、学習した項目から「横」に広げていけるか(他の問題への適用、日常生活への適用など)、「縦」に深めていけるか(別解の探索、学習項目の定着など)が鍵となっている。肯定的に回答している児童が全体の60%であることを考えても、残り40%の児童にそのような態度・学習方法を身に付けさせることが、学習到達度の向上につながるのではないだろうか。

■算数の学習到達度と関心・意欲・態度の回答傾向〈小5〉



中学校数学：第 2 学年の結果分析



(1) 結果概況

<度数分布>

中 2 の数学では平均通過率は 70.8 % となっており、小学校の度数分布と比較すると、山がやや左によっており、学力のパラツキが広がっている様子が見える。

<学力観点別状況>

① 「数学的な見方や考え方」…既習の項目を用いて解答を組み立てる力の育成

この観点においては、授業の中で学習した項目をもとに、自分で解答を組み立てて解くような問題を出している。平均通過率は、47.6 % と他の観点に比べて 20 ポイント以上低くなっている。設問ごとに見ていくと、具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、連立 2 元 1 次方程式を立式し、解答を求める問題 (第 5 問 (1)) では通過率 41.1 % であり、無解答の答えは 40.9 % となっている。また、具体的な事象の中の 2 つの数量の関係をとらえ、一次関数の式を求める問題 (第 5 問 (2); 次ページ参照) でも、通過率 40.1 % で無解答の答えは 24.3 % である。文章から立式に必要な条件を整理し、立式に持ち込むという部分でつまずいている生徒が多いのではなかろうか。それぞれの項目の知識・理解、表現・処理の部分を習得した上で、それらを問題に適用するという力の育成が求められよう。



□出題要旨と結果：第5問（2）

具体的な事象の中の2つの数量の関係をとらえ、一次関数の式を求める。

解答内容	評価	割合 (%)
◎ 正解	正解	40.1
× 変数のとり方の間違い	不正解	11.7
× 符号の間違い	不正解	3.2
× 上記以外の解答	不正解	20.6
× 無解答	不正解	24.3

②「数学的な表現・処理」、「数量、図形などについての知識・理解」…弱点克服と理解の徹底

数学的な表現・処理においては平均通過率 67.5 %、数量、図形などについての知識・理解においては平均通過率 74.3 %と、小学校と比較すると、定着状況が低くなっている様子が見えてくる。設問ごとに見ていくと、2つの量が比例の関係のものを見つける問題(第1問(4))で44.8 %、通る2点から一次関数の式を求める問題(第4問(3))で41.5 %と通過率が大幅に低くなっている。数量関係の分野、とくに一次関数でつまづいている生徒が多いようである。このあたりの定着状況の低さは、普段の指導の中で感じている部分かもしれないが、改めて弱点を把握し、しっかりと理解させておく必要がある。特にこの項目は関数の概念の基本的な部分であり、今後学習項目がさらに発展することを考えると早めの対策が求められよう。

■出題内容・通過率一覧

中学校数学第2学年

問題番号		出題の内容	評価規準	学力観点					学習領域			通過率
大問	小問			応用	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方を	数学的な表現・処理	数量・図形などの知識・理解	A数と式	B図形	C数量関係	
1	1	平均の求め方	平均の求め方について理解できている					●			■	97.2
	2	文字式の表し方	文字の式の表し方の約束が理解できている					●	■			82.9
	3	連立2元1次方程式の解き方	連立2元1次方程式の解き方(加減法)が理解できている					●	■			65.6
	4	比例の関係	比例の関係が理解できている					●			■	44.8
	5	1次関数のグラフの傾きと切片	1次関数のグラフの傾きと切片を理解できている					●			■	76.3
2	1	線対称な図形	線対称な図形を見つけることができる					●		■		42.4

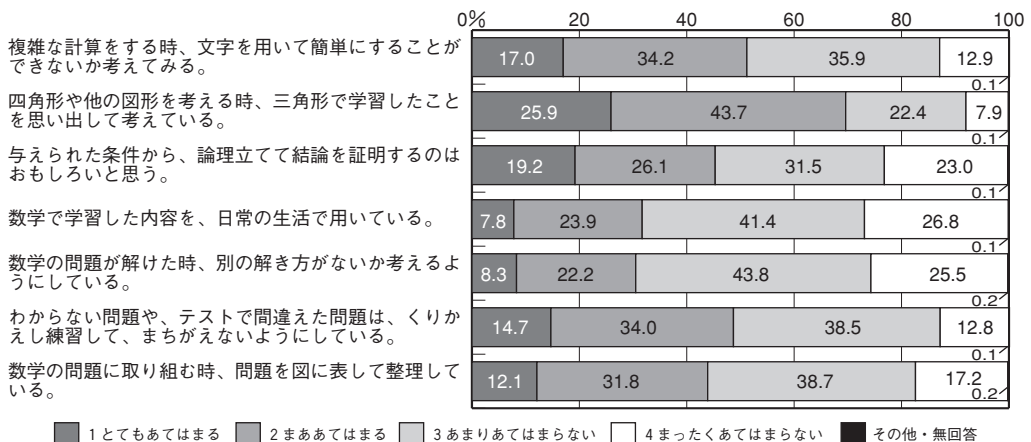
※この表は前ページからの続きです。

3	2	多角形の内角の和	多角形の内角の和を求める式がわかる				●	■	81.1
	3	三角形の合同条件	三角形の合同条件について理解できている				●	■	92.2
	4	二等辺三角形の定義	二等辺三角形の定義について理解できている				●	■	80.1
	5	命題の逆	命題の逆について理解できている	○			●	■	86.0
	1	分数×分数の計算	分数×分数の計算ができる (約分あり)				●	■	85.6
3	2	正の数・負の数の減法	正の数・負の数の減法ができる				●	■	92.0
	3	多項式の減法	多項式の減法ができる				●	■	84.2
	1	1次方程式	1次方程式が解ける				●	■	81.8
4	2	連立2元1次方程式	連立2元1次方程式が解ける				●	■	71.4
	3	通る2点から1次関数の式を求める	通る2点から1次関数の式を求めることができる				●	■	41.5
	4	対頂角、平行線の性質と角の大きさ	対頂角、平行線の性質を用いて角の大きさを求めることができる				●	■	87.8
	5	三角形の内角と外角	三角形の内角と外角の性質を用いて角の大きさを求めることができる				●	■	90.8
	1	連立2元1次方程式	具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、連立2元1次方程式を用いて問題を解くことができる	○	●			■	41.1
5	2	1次関数の式を求める	具体的な事象の中の2つの数量の関係をとらえ、1次関数の式を求めることができる	○	●			■	40.1
	3	三角形の内角の和と内角外角の性質	三角形の内角の和、内角と外角の性質を既知のことに帰着して角の大きさを求めることができる	○	●			■	79.2
	4	三角形の合同の証明	三角形の合同の証明ができる	○	●			■	68.7
	5	正三角形の性質と角度の作図	正三角形の性質を用いて、ある角度の角の作図ができる	○	●			■	12.3
	1	身のまわりの円柱	身のまわりにある立体について関心をもっている		●				88.1
6	2	問題の作成	与えられた数式から具体的な事象を発想する楽しさに気づき、進んで数学的に考え表現できる		●				56.0

## (2) 関心・意欲・態度に関する質問と回答結果

中学校第2学年の数学の関心・意欲・態度に関する質問の回答結果は以下の通りである。

### ■中学校数学第2学年 関心・意欲・態度



肯定的な回答(「とてもあてはまる」および「まああてはまる」)をしている生徒の割合を見ると、次のような傾向がうかがえる。

各項目の間で、肯定的に回答をしている生徒の割合にバラツキが見られるとともに、小学校と比べると肯定的な回答をしている割合が低くなっている。「数学で学習した内容を、日常の生活で用いている」という質問に対して肯定的に回答している生徒は31.7%と低くなっている。算数以上に、日常と数学が乖離している様子が見えてくる。学習の導入の部分での動機付けなどで、日常生活と数学がリンクする場面を設けていくことが求められよう。

また、「わからない問題や、テストで間違えた問題は、くりかえし練習して、まちがえないようにしている」という質問に対して肯定的に回答している生徒が48.7%である一方、「数学の問題が解けた時、別の解き方がないか考えるようにしている」という質問に対して肯定的に回答している生徒は30.5%である。目の前にある問題や解法を理解し、習得するという学習方法はいくらか定着しているものの、そこから発展させて考える生徒は少ない。1つの問題をきっかけに、数学的に視野が広がると、それがまた関心・意欲につながっていくのではないだろうか。

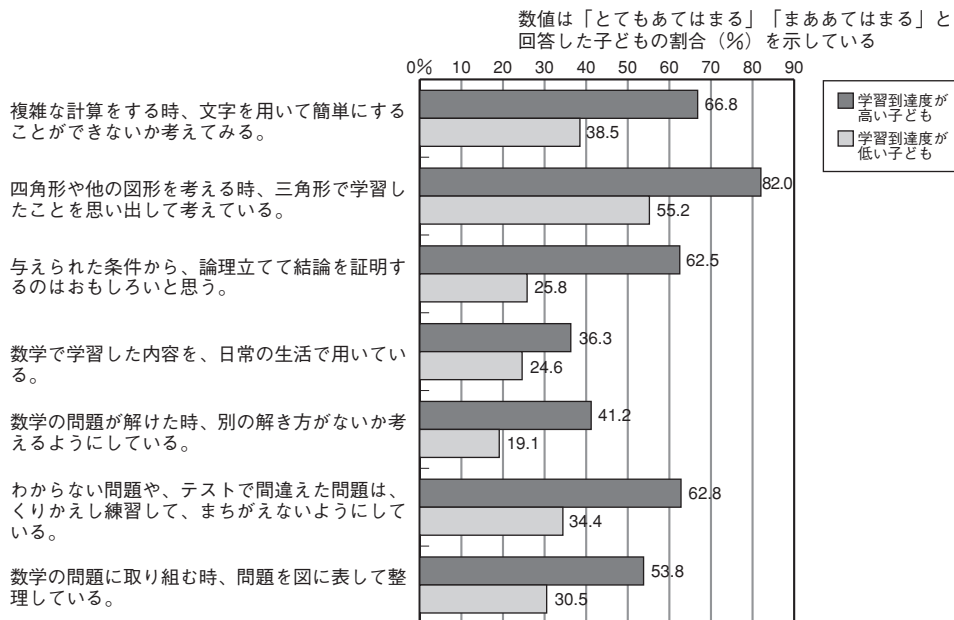
### (3) 学習到達度と関心・意欲・態度の関係

学習到達度調査の数学の結果によって生徒を3つの学力群に分け、そのうち学力上位の群と下位の群とで、関心・意欲・態度に関する質問の回答状況がどのように違うのかを調べた。

いずれの項目においても、学習到達度が高い生徒のほうが、肯定的に回答している割合が高く、また多くの設問で学習到達度が高い生徒と低い生徒との差は30ポイント近くになっている。教科学習に対する関心・意欲・態度と教科の学習到達度は、互いに強い関係があり、小学校と比較してその差が顕著に表れている。

このうち、「複雑な計算をする時、文字を用いて簡単にすることができないか考えてみる」では28.3ポ

### ■数学の学習到達度と関心・意欲・態度の回答傾向〈中2〉

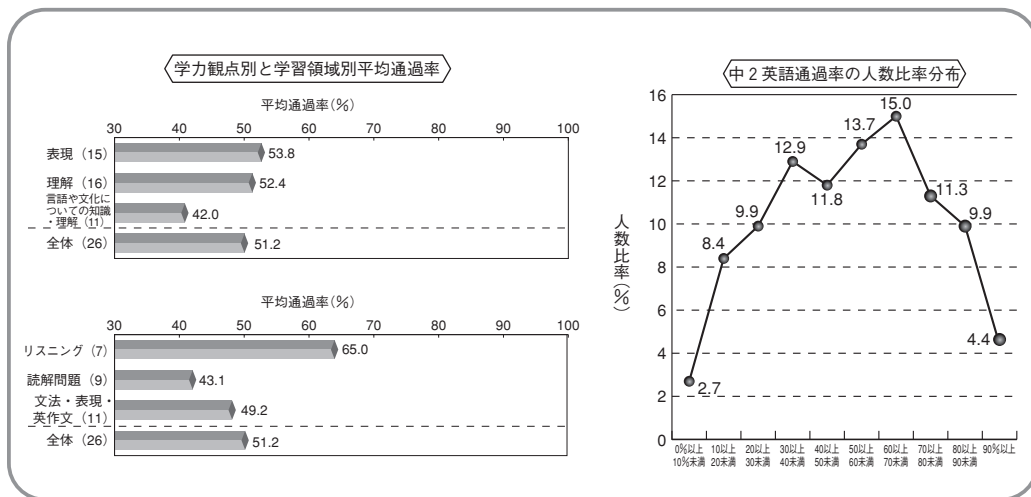


イント、「四角形や他の図形を考える時、三角形で学習したことを思い出して考えている」では 26.8 ポイントの差がある。数字から文字へ、三角形から四角形へなど、学習項目に連続性を持たせることで、学習項目を整理して理解することにつながっていくのではないだろうか。

中学校の数学では、学力格差が広がっていく傾向がある。学習事項の徹底にあわせて、学習への動機付けとなる「関心・意欲・態度」の育成、学習をスムーズに行うための「学習方法」の習得、これら三位一体での指導が鍵になってこよう。

## 英語

### 英語：中学 2 年の結果分析



#### (1) 結果概況

##### <度数分布>

中 2 の英語では平均通過率が 51.2 % であり、度数分布を見ると 50 % 以上の問題を通過した生徒は、全体の 54.3 % である。

##### <学力観点別状況>

#### ① 「表現」…意欲的に取り組んでいるが、文法面については不十分

表現力を見る問題として、与えられた単語のなかから必ず 1 つの単語を使って英作文を 5 文以上記述する条件英作文の問題を出題している (第 5 問 (2) ; 次ページ参照)。この問題の結果を見ると、79.7 % の生徒が通過しており、「何かを英語で書こう」という意欲を持って自分の意見を書くことができている。ただし、通過した解答においても、共通の構文を用いての解答や文法的に正しくない解答が多く見られる。自分の書きたいことを書こうとする意欲を尊重しながら、文法面で指導が充実していくことが望まれよう。

## □出題要旨と結果：第5問（2）

与えられた単語を用い、5つの英文を作る。

解答内容	評価	割合 (%)
◎ 5つの「英文」があり、正しいものが5つある。	正解	30.7
○ 5つの「英文」があるが、英文に誤りの表現がある。	準正解	49.0
× 英文の数が5つ未満である。	不正解	9.7
× 無解答	不正解	10.6

## ②「理解力」…会話の状況や説明文の内容をつかみきれていない

どの話者が何を発しているかなどの会話の状況(第6問(1))や、説明文中の英文和訳問題(第7問(1))など、より詳細な理解を見る問題において通過率が低い(14.5%、26.5%)。会話文や説明文のおおまかな内容は理解していて大意どりはできているものの、会話の移り変わりや詳細な説明を正しくつかみきれていなかったものと思われる。会話文においては、「だれ」が「何」を話しているかにも注意を向けさせていく必要があろう。説明文においては、日頃からいろいろなジャンルの説明文に触れさせるなどして、正しく丁寧な読み癖をつける指導が必要であろう。

## □出題要旨と結果：第6問（1）

会話文の空欄にあてはまる英文を選ぶ。

解答内容	評価	割合 (%)
× ア 会話の内容を正しく読み取ることができていないもの	不正解	16.3
× イ 会話の状況を正しく読み取ることができていないもの	不正解	30.3
◎ ウ 会話の内容を正しく読み取り、適切な英文を選択しているもの	正解	14.5
× エ 会話の状況を正しく読み取ることができていないもの	不正解	34.2
× その他の解答	不正解	0.1
× 無解答	不正解	4.6

## ③「言語や文化についての知識・理解」…さらなる知識の定着を

「言語や文化についての知識・理解」の学力観点における基礎問題(第3問(1)～(4)、第5問(1)①・②、第7問(1))における平均通過率は45.5%である。なお、同観点における応用問題を含めた平均通過率は42.0%とさらに低い。時制や助動詞などの基礎的な文法事項などの定着はおおむね満足な結果であるものの、基礎事項の定着確認をすることが望まれる。

■出題内容・通過率一覧

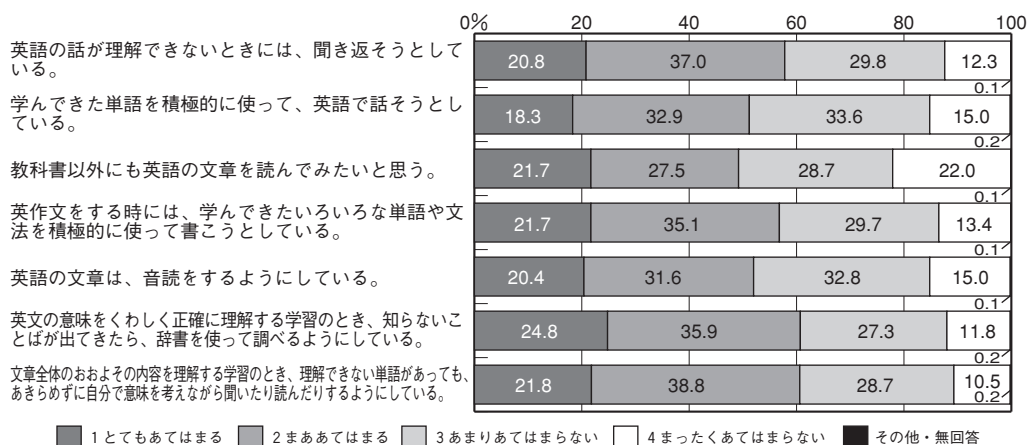
中学校英語第 2 学年

問題番号		出題の内容	評価規準	学力観点				学習領域		通過率
大問	小問			応用	関心・意欲・態度	表現	理解	言語文化理解	リスニング	
1	(1)	Q1 会話のリスニング	会話のリスニングができる			●		■		83.2
		Q2 会話のリスニング	会話のリスニングができる			●		■		72.9
	(2)	文章のリスニング・内容判断	文章のリスニング／内容判断ができる	○		●	●	■		35.9
2	Q1	会話の継続	リスニングで聞いた会話の継続ができる			●	●	■		78.0
	Q2	会話の継続	リスニングで聞いた会話の継続ができる			●	●	■		73.5
	Q3	会話の継続	リスニングで聞いた会話の継続ができる			●	●	■		58.3
	Q4	会話の継続	リスニングで聞いた会話の継続ができる	○		●	●	■		49.4
3	(1)	空欄補充	文法／前置詞を理解している			●	●		■	32.0
	(2)	空欄補充	文法／前置詞を理解している			●	●		■	35.1
	(3)	空欄補充	文法／時制（未来）を理解している			●	●		■	62.8
	(4)	空欄補充	文法／助動詞を理解している			●	●		■	61.6
4	①	会話表現・空所補充	状況に応じた会話への適切な語のあてはめができる	○		●	●		■	26.0
		会話表現・空所補充	会話への適切な語のあてはめができる			●			■	54.7
		会話表現・空所補充	会話への適切な語のあてはめができる	○		●			■	40.0
5	(1)	① 文法／動名詞	単語を適切な形／動名詞にすることができる			●	●		■	57.3
		② 文法／最上級	単語を適切な形／最上級にすることができる			●	●		■	43.0
	(2)	条件英作文	条件英作文ができる	○		●			■	79.7
6	(1)	会話文状況把握	会話の流れから状況を把握し、会話文を組み立てることができる			●		■		14.5
	(2)	並べ替え英作文	並べ替え英作文ができる			●	●	■		56.1
	(3)	会話文内容把握	会話文内容把握／一致するものを 2 つ選ぶことができる			●		■		59.6
		会話文内容把握	会話文内容把握／一致するものを 2 つ選ぶことができる			●		■		54.3
	(4)	会話文内容把握	会話文内容把握／地図上の位置を示すことができる	○		●		■		48.0
7	(1)	和訳	動名詞を含む文を和訳することができる			●	●	■		26.5
	(2)	指示語	文章の内容を理解し、指示する言葉を抜き出すことができる			●		■		45.9
	(3)	語句の抜き出し記入	文章の内容を理解し、空欄に適切な語句を記入することができる	○		●	●	■		25.7
	(4)	説明文の文意把握	筆者の主張を読みとることができる	○		●	●	■		56.5

[注]今回出題したうちの一部の設問については、履修進度の関係で学習到達度を見る問題としては不適切と判断し、分析対象から削除した。一覧には削除後のものを示している。

**(2) 関心・意欲・態度に関する質問と回答結果**

中学校第2学年の英語の関心・意欲・態度に関する質問は、学習意識調査の中で行った。調査項目の設計においては、学習指導要領の内容や国立教育政策研究所の評価規準例などを参考に、好ましい関心・意欲・態度を厳選・検討し、質問項目とした。全体の回答結果は以下の通りである。

**■中学校英語第2学年 関心・意欲・態度**

肯定的な回答(「とてもあてはまる」および「まああてはまる」)をしている生徒の割合を見ると、下のような傾向がうかがえる。

**①英語に対する関心・意欲・態度に関する項目**

全体的に見て5割以上の生徒が肯定的に回答をしている。英語に対する活動について、過半数の生徒が意欲をもって取り組んでいることがわかる。

英語の基礎力となるふだんからの学習事項の定着・実践を求める内容の質問については、「英作文をする時には、学んできたいろいろな単語や文法を積極的に使って書こうとしている」生徒が56.8%、「英文の意味をくわしく正確に理解する学習のとき、知らないことばが出てきたら、辞書を使って調べるようにしている」生徒は60.7%である。こつこつとしたことだが、これらの学習方法が身に付くことによって、更なる学習到達度の向上につながる事が予想される。

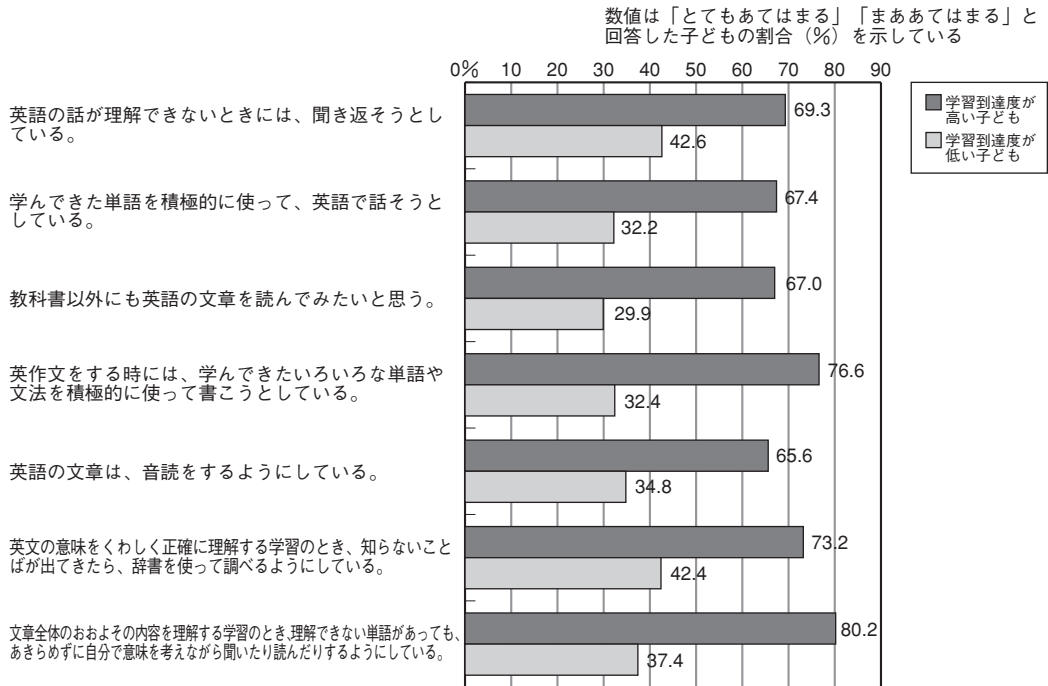
**②教科書以外の英文に触れるのが苦手な子どもが半数近くいる**

「教科書以外にも英語の文章を読みたいと思う」生徒の割合は、49.2%であり、最も低い回答率であった。「教科書以外で英文を読まない」生徒が半数以上いることを示しており、そのような子どもたちの苦手意識を取り除くことや意欲的に英文に触れるような指導をする必要があろう。

**(3) 学習到達度と関心・意欲・態度の関係**

学習到達度調査の英語の結果によって生徒を3つの学力群に分け、そのうち学力上位の群と下位の群とで、関心・意欲・態度に関する質問の回答状況がどのように違うのかを調べた。

■英語の学習到達度と関心・意欲・態度の回答傾向〈中2〉



いずれの項目においても、学習到達度が高い生徒のほうが、肯定的に回答している割合が25ポイント以上高い。これは、教科学習に対する関心・意欲・態度と教科の学習到達度は、互いに強い関係があることを示している。

上記の質問項目について、学習到達度が高い生徒と低い生徒との差が大きい項目を見ると、「文章全体のおおよその内容を理解する学習のとき、理解できない単語があっても、あきらめずに自分で意味を考えながら聞いたり読んだりするようにしている」が42.8ポイントの差、「英作文をする時には、学んできたいろいろな単語や文法を積極的に使って書こうとしている」が44.2ポイントの差となっている。英語において、このような推測する力や積極的な姿勢を身につけることは学力向上に強く関連するものと考えられる。

「英語の文章は、音読をするようにしている」という項目では、他の項目に比べると学習到達度が高い生徒と低い生徒との差は相対的に小さいが、30ポイントもの差がある。音読をすることは、まず、生徒が集中する時間を確実に確保できる手段であるので、ぜひとも定着させたい学習方法である。また、音読をすることにより、自分が話すことを聞き手に伝えようとする態度も生まれ、まとまった意味のかたまりを読むことにより文章を類推する力もついてくる。スラッシュ・リーディングなど具体的な読み方を教えるのもより効果的な学習習慣の定着につながるのではないだろうか。

担当 国語：河田 真  
算数／数学：森本佳乃子  
英語：中山 明子